

各新聞など情報誌の記事をピックアップして掲載しています。  
木のこと、経済、福祉、災害、エコ、住まいなど、色々な話題です。

## 令和6年 11月のHPきごころ通信 (先月の話題)

### (1) 進撃のクマ、里山に 30年後は都市占拠か 人の活動は減少、望まぬ遭遇で被害多発

- \*2023年度、秋田県では3723件もの熊の目撃情報があり、70人が負傷。
- \*被害者数で秋田県に次ぐのは岩手県の49人で、この2県で全国の過半。
- \*熊の活動が活発化する9～11月は被害が出やすい季節。
- \*人と熊の生活圏はもはや重複しています。
- \*里山は熊と人の世界を分ける役割を果たしてきました。
- \*人の活動が活発だったところは野に下りてもすぐ山に帰るのが常でした。
- \*都市以外の人口は2020年に約3900万人と、1980年(約4700万人)から2割減少。
- \*秋田県の人口減少率は11年連続で全国最大。
- \*熊の生息域は1978年から2018年にかけて倍増し、すでに国土の6割超。

(2024年10月7日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

### (2) 自転車「ながら運転」ダメ 反則金 2年以内に導入

- \*自転車が関連する全交通事故に占める割合は4分の1に迫ります。
- \*2023年の自転車が関連する死亡事故の7割以上については、自転車側の交通違反がありました。
- \*11月からは携帯電話やスマートフォンを使つての「ながら運転」への罰則がこれまで以上に厳しくなります。
- \*「酒酔い運転」は今すでに罰則の対象です。
- \*11月からは酒気帯び運転も罰則の対象となります。
- \*一定の交通違反に対して反則金を納付させる「青切符」は、2026年までに導入される見通しです。 \*青切符が交付されるのは16歳以上。
- \*信号無視、一時不停止、右側通行、ながら運転の取り締まりが重点に。
- \*自転車による事故で死亡する原因(2019～2023年)は、頭部の損傷が半数以上。

各新聞など情報誌の記事をピックアップして掲載しています。  
木のこと、経済、福祉、災害、エコ、住まいなど、色々な話題です。

\*ヘルメット着用率は7月時点で17%。

\*自転車保険の保険料は家族全員を補償の対象とするもので年間約4000～7000円。

(2024年10月12日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

### (3) 家計支出、28%が食費

#### 1～8月 購買力圧迫、消費下押し

\*2024年1～8月のエンゲル係数(2人以上世帯)は28.0%。

\*1982年以來の高い水準。

\*年収1000万～1250万円の世帯の1～8月のエンゲル係数は25.5%。

\*年収200万円未満の世帯は33.7%。

\*19663年ごろは高度経済成長期で、エンゲル係数も低下傾向。

\*2010年代からじわじわ上昇。

\*9月の消費者物価指数は、生鮮食品を除く食料は3.1%上昇。

\*9月の米類は44.7%上昇と49年ぶりの上昇幅。

\*9月のスーパーの支出は8月と比べ4.4ポイント低下。

(2024年10月19日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

